**第１回平戸市認知症初期集中支援チーム検討委員会　会議結果**

**１．日　時**：平成29年６月28日（水）午後７時　開会　午後８時40分　閉会

**２．場　所**：平戸市役所３階大会議室

**３．出席者**：委員９名中、８名出席

出　席：石田委員・岩本委員・大浦委員・塚本委員・中桶委員・濵﨑委員・福﨑委員・山本委

　　　　員

欠　席：松本委員

　　事務局：岡部市民福祉部長・度嶋福祉課長・石田参事兼高齢者支援班長・藤井主任・谷本主査・大山主任主事・浅田認知症地域支援推進員

**４．次第**

　①開会

　②平戸市市民福祉部長あいさつ　市民福祉部長　岡部　輝幸

　③委嘱状の交付　岡部市民福祉部長より委員を代表して中桶委員に委嘱状交付

　④委員及び事務局職員紹介

　⑤委員長・副委員長の選任

　　互選により、委員長に濵﨑委員、副委員長に松本委員を選出

　⑥委員長あいさつ　濵﨑委員長

**５．協議事項**

（１）認知症初期集中支援推進事業について

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局○○委員事務局○○委員 | 配布資料に基づき説明。資料で、全国14市町村でモデル事業が行われたとの記載があるが、具体的にどこか分かるか。分かれば事業の参考になるだろう。手元に確認できる資料がないため、よければ何らかのかたちで後日回答したい。参考になるかもしれないので、よろしくお願いしたい。 |

（２）本市における認知症を取り巻く現状について

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局 | 配布資料に基づき説明。～　質疑なし　～ |

（３）認知症初期集中支援チームについて

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局○○委員事務局○○委員事務局○○委員事務局○○委員事務局○○委員○○委員○○委員○○委員事務局○○委員事務局○○委員事務局○○委員○○委員事務局事務局○○委員事務局○○委員○○委員事務局○○委員○○委員事務局○○委員 | 配布資料に基づき説明。チームが介入した後の流れは資料を読めば分かるが、チームが介入する前の相談窓口にどうやって来てもらうか、軽度の方をどうやって相談窓口につなげていくかということが非常に大事ではないかと思っている。私が事業所として関わる瞬間というのは、どうしても重度というか、もう大変になっているなという状況からしか関わりができない。ということがあるのであれば、「ちょっと変だなあ、おかしいなあ」と感じた時に、どれだけ見つけることができるか、相談できる環境を作れるのか、相談窓口としてとても大事ではないかと思っている。昔、痴呆と呼ばれたときは、痴呆と言われると、ボケている人というような感覚になっていたが、最近では認知症と言われると、私は認知症と言われることが普通というか、認知症という言葉に対してもやはり偏見が出てきていると思うので、認知症初期集中支援チームの窓口だ、となってしまうと「俺は認知症ではないから、そういう話は聞かなくていいよ」というような嫌悪感というか、敬遠されるのではないかなという恐れもあるため、窓口を立てるにしても違う言葉で作ってもらう、人が来やすいというか、相談しやすいとか、そして相談を待つのではなく、相談にのっていけるというような環境が整えられればいいのではないかと思うが。何かイメージのようなものはあるか。言われるように、認知症、以前は痴呆という言葉もあり、今では認知症ということで、どうしても認知症というイメージが前に出てしまって、昔よりは少なくはなくなってきたかとは思うが、それでもやはり少なからずあるのではないかと思われる。認知症初期集中支援チームというものの窓口については、他の自治体などではオレンジがイメージ色になっており、先ほどお話したとおり認知症サポーターについては、こうしたオレンジリングという部分があるため、例えば認知症初期集中支援チームとは直接には解さないで、オレンジチームなど、そういった呼び方をしているところはあるため、認知症という言葉がそういったイメージがもし社会的に市民権を得られていない状況であれば、直接的な表現は考えないといけないのかと思っている。今の○○委員の意見も確かにそうだと思うが、スクリーニングがなかなか難しい。認知症と言ってしまうとハードルが上がってしまう。それに代わる何か、「こういうこと見たらお父さんお母さん、気を付けてね」という感じであるとか、外来診ていても「年だからしょうがないよね」といったことも見受けられる。そういうことからいけば、早期に介入すればよくなるということがある。間口を広げるということは確かに必要ではないかなと、私は感じている。ひとつ確認であるが、認知症初期集中支援チームの資料を見ると、家族や民生委員、介護支援専門員等からの相談となっているが、時々医療機関でも見受けられる。本当は相談したいのに、認知症ということを隠してしまう、「お父さん、認知症だよ、と言われてしまったら人生終わりよね」というような人もいるので、こういうときは医療機関が相談するということを想定されていないのか。記載したいと思う。そうなると、実際に「少し危ないよね」という人がいると、「ひとつ相談してみないか」、ということもある。実は高血圧だけれども、診ていると前から同じことを言い続けているということもあるし、それから隠している人もいるので、そういうことも入れていただくと助かる。○○委員や○○委員からもあったとおり、相談は今でも認知症にかかわらず、窓口は包括や、それぞれの高齢者支援センターであったり、市役所の出先でもあったりということはあるが、認知症初期集中支援チームが確立されていけば、例えば民生委員や介護事業所の会議、ケアマネの会議であったりというのも当然あるため、そういった部分で情報周知などをしていかなければならないのかなと感じている。そういった対応は素晴らしいことだと思うが、情報をどこがまとめるのかなと。様々なところということで、地域包括支援センターとあるわけだが、どういったフォーマットで情報が整理されるのか、でなければ、折角集めた情報に対して、私たちがどこにアクセスしたらいいのかとか、実際に勤務して働くときに、どこにアクセスし、どういったフォーマットの情報がもらえるのかということが分かりにくいということと、実際にこれまであった件数というのが年間７～８件ということであるが、このチームが動くことによってどういったところで評価されるのか、件数で評価されるのか、最終的には何をもって、この行動がどのような数値目標をもって評価されるのかは、何か考えがあるか。ただ、相談件数がたくさん増えたからいいのか、それとももっと大きなことでいうと介護費用が減ったからいいのか、インパクトがあるからいいのかなど、そういった想定の数字はあるのか。ただ、集まって話したからいい、ということではなく、実際件数はこれだけ出た、こういった事例もあったなど、数値目標や評価する基準というのは何かお考えか。２点あったかと思う。情報アクセスの部分というところでフォーマットということであるが、別添資料２の書式の中で一定の様式を今のところ案として考えている。こちらについては、詳細な説明は割愛するが、この中でアセスメントの情報を落とし込んだり、経過を記録したりと、まとめていきたいと考えている。医療機関が変わると、保存される場所も変わってしまう。例えば、平戸市民病院を受けていて、生月病院でも受けている場合、そのところの情報は参照することができない。それぞれが持っている情報というのは参照する可能性があるので、どこかでまとめていただいた方がやりやすいと感じる。私が知っている情報を○○さんとか、○○さんが知らないとか。○○さんが持っている情報は私がなかなかアクセスしにくいとか、個人情報の問題もありますので。そういった分で何か情報のアクセスの方法を考えてもらえるとありがたい、これは難しいことではあるが。包括支援センターに聞くといろいろな質問に答えてもらえるとか、どちらに聞いたらいいよとか、分かるかどうかということである。組織としてはいいけれども、情報がどこにいつもあるのか、ひとつのところにまとめてもらわないと、どこに聞いたらいいか分からないということで終わってしまうと、効果的な連携はできないのではないか。イメージされているのは、あじさいネットや母子手帳のようなものか。そのとおり、そのようなものである。諫早市では「オレンジ手帳」というものがあり、それこそ自分で書く書式にはなっているが、いろいろなところがどういう支援をしたかということが一冊にまとまっているので、そのあたりを調べてみるといいかもしれない。諫早の「オレンジ手帳」は、確かにある。情報の集約という部分については、支援対象者が持っているということでも大丈夫なのか。それはどこでもいいとは思うが、本人が持っていることはベストである。本人を取り巻く多職種のサービスが一括で把握できるものか。そういったものである。○○委員が言ったように母子手帳のような、手帳のようなものがあると便利である。こうやって、こういうことされていると。病院でいうところのお薬手帳みたいなもの、そういったものがあると、いいのではないだろうか。評価と数値目標をどこでみるのかという部分について、答えとしては今のところ持ち合わせていない。ただ指標としては、おそらく初期集中が始まっている自治体というのは当然あるので、アウトプット、評価の部分というのは、次のステップに対して、やはり持つべきものかなというところはあるため、成果指標については相談件数でみるのか、介護の認定率が下がったことでみるのか、費用が下がったことがいいのかということはいろいろと感じるところがあるため、事務局で一定、整理を行い、将来のチームの実績という部分に照らし合わせるかたちで整理をさせていただきたい。いかがか。よろしくお願いしたい。医療機関もそうだが、自分が介護予防事業に関わっていてよくある質問が、区長さんから「認知症の方を見つけた時に、どこに相談したらよいか」と聞かれる。どうやって相談するのか、ということについて何かしらアナウンスなどしているのか。区長さんが「あの方が怪しい」となった際に、それをどうすれば、どこに相談したらよいのか、ということが分からないということもあり、そういったことは区長さんなどに対し、周知などしているのか。一応、区長さんというか、民生委員さんに対しては、地域包括支援センターに相談したらいいということで、紹介は行ってはいるが。区長会に直接行って、認知症のことだけでということでは言ってはいないが、「高齢者の困りごとは、地域包括支援センターにつないでください」と、お知らせはしているが、うまく伝わっていないところもあるかもしれない。区長さんは町のことをよく分かっているかと思われるので、そのあたりをアナウンスした方がいいのではと思う。今、認知症だけをこの場では議論しているが、全体的に認知症もあるし、今言われているのが、医療と介護の在宅での連携、地域ケア会議というのもあり、要は地域包括ケアシステムという部分の中で、住み慣れたところでなるべく在宅で暮らしていただく方がいいのではないかというような制度設計をしている中で、区長さんや民生委員さん、それから介護事業所、関係機関については、地域における会議などで顔を合わせる機会も今まで以上に多くなってきているため、そういった中で認知症の部分についても、もしよければ包括とか高齢者支援センターとか、または医療機関を通じてでもいいかと思われ、相談いただければと思う。ＰＲではないが、アナウンスの部分は担保していきたいと考えている。私も地域の民生委員さんや、区長さんとかサロンを活動している方の前でお話しさせてもらったりするが、その時に言われるのが「こういう人がいるが」ということ、今言われたように「どこに相談すればいいか」と言って、「包括支援センターとかある」と言っても、なかなかその方が民生委員さんや、おかしいなと思っている方とかに「包括に行っては」とはなかなか言わないと思う。もうひとつが、「私が言ったら怖い」というか、私がというか、民生委員さんが行政などに話をして、それで私の発言が、情報が言ったことで役所の人たちが家に来たと、そういうふうに思われるのが嫌なんだ、というところがある。だから、そういったところで、一番私の中でメージできるところが、民生委員さんはいろいろな情報を持っていると思うが、地域の方、そういった方をどうやってフォローしていくかということが大事ではないかと思うが。思っているが言えないし、どうしたらいいのだろうと思っている民生委員さんたちは、意外と多いのではないかという気がする。かえって民生委員は相談されれば反対にやれるが、情報を聞いただけではなかなか報告しづらい。家族の方とか相談を受ければ、包括支援センターとかに相談はできるが。なかなかないのが、ただ認知症みたいだなというだけで、そういった提供はなかなかできない場合がある。確かに家族や本人から相談を受けたといって、包括の方に連絡を受けるケースは多いが、言われるように「私から言ったと言わないで」と相談があることもある。そういう場合は「その気持ちも分かる」ということで、情報をいただいたうえで、包括の職員で赴く際には、高齢者の方の家庭訪問で回っているといったかたちで、「誰々から聞いた」などは言わずに訪問させていただいているため、そのあたりの秘密は守って訪問もできるため、安心して相談していただけたらと思っている。そういったことが周知徹底されていないと思われる。そのことをどうしていくかということを考えないといけない。民生委員さんや区長さんに分かってもらうというアピールである。やはり人が告げ口した、というところは、怖くてなかなか言えないところもある。先ほど言ったように、入り方だろうと思う。なので、先ほど言う入り方はこちらの方で工夫をして家庭には入りたいと。問題はやはり、どこに相談したらいいか分からないということであるので、先ほど言うように、今、まちづくり協議会の中で地域包括ケアに係る協議体というものを設置しているため、そのあたりでこちらから周知を図っていく必要があると思っている。やはり地域の総会等で「あの人、今日おかしいことを言っている」ということに気づくのは、そこの区長さんとかが多いのかなと思うため、そういったところで会議のあるところでこちらとしても周知を極力、いろいろな会議の場で行っていくようにしていきたい。３点ほど。私は松浦市の認知症初期集中支援チーム員会議などに出させていただいているが、そこを踏まえ、説明を聞いていくつかここはどうかだろうかと感じるところがあった。最初に、包括ケアの全体像が見えると分かりやすいのではないかと思う。というのは、先ほど、これは初期集中支援チームの会議であるが、それが包括ケアの構築全体ではどこに位置づけられているのかということが分かると、よりチーム員がどう機能するのかという議論が深めやすいのかと、例えば先ほど言われていたケア会議との連動や、認知症カフェをこれからどうするのかとか、介護予防事業との連携もあるだろうし、地域の方が自宅で暮らす際には地域支援の体制も考えなくてはならないし、そこでの協議体の位置づけというところもあるため、そのような全体像があり、認知症初期集中支援チームはここだというものがあると何か議論が進みやすいのではないかと思う。２つ目が、認知症初期集中支援チームのチーム員会議に出ると、やはり権利擁護問題がたくさん出てきているなと感じる。金銭の管理ができないということで、消費者トラブルに巻き込まれる方がいるため、チーム員会議のときに弁護士を松浦市では呼んでいる。毎回でなくてよいが、今回がこういった方がいるのでということで呼んでいただくこともいいでのはないかと思った。３つ目が認知症疾患医療センターとの連携というところが、ここではあまり見えてこなかった。チームそのものは認知症疾患医療センターと連携していくと思われるが、疾患医療センターというのは住民への周知の手伝いや研修会の講師をしたり、そのような活動もしているため、力を借りていただけたらどうかと思った。 |

（４）認知症ケアパスについて

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局 | 配布資料に基づき説明。～　質疑なし　～ |

（５）認知症に関する施策について

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局○○委員 | 配布資料に基づき説明。配布資料を見ていると、認知症というイメージが何か暗いなと感じる。認知症になってもこれはできるとか、こういったことはできる、ということがあるとよいのではないかと感じた。少し明るい話題も提供できたらいいでのは、と思う。 |

**６．その他**

（１）会議開催状況の市ホームページへの掲載について

（２）次回会議開催時期について

（３）認知症の診療を行う医療機関調査について

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局委員長各委員委員長事務局委員長○○委員事務局○○委員事務局○○委員○○委員○○委員○○委員 | 説明。まず第１点目の会議開催状況の市ホームページへの掲載についてということであるが、いかがか。私としては、行っていいのではと思っているが。了承。２番目は次回開催時期については、後日日程調整を行うということでよいか。９月下旬開催を目途に、後日、日程調整を行いたい。最後に認知症の診療を行う医療機関調査について、いかがか。この調査を行う目的は何か。どこにどういう目的でこの情報を集めるのか。目的としては相談をいただいた際にどちらに伺うべきか、主治医の方で判断できるのかどうかというところが分からないところもあり、例えば○○先生のところに行けば対応できるなどという話はできるが、地域的に遠い方もいるため、そういったところを情報としてまとめることができないのかという思いで行うものである。情報としては、あまり役に立つものではないと思われる。鑑別疾患などやらなければということもあり、調査内容自体いらない項目も見受けられる。もしそうであれば、認知症疾患医療センターなどはきっと連携している施設などの情報は持っている。まず、そちらの方が簡単に情報は手に入るのでないか。あとは認知症サポート医がたくさんおり、それは県のホームページに掲載されているため、そちらにリンクを貼ってもいいでのはないかと思う。○○委員が言われたように、はじめのところでかかりつけの先生にまずはこういったキーワードで相談をしてみてはどうかと。そういうキーワードがあると、次に行きやすいと、そういうものがあってもいいのではないかと思う。スクリーニングにつながるような、相談はかかりつけの先生でということでもいいのかもしれない。特に感度が高いため日付が分からないとか、何度も同じことを聞くとか、そういうキーワードがある場合は、まずかかりつけの先生に相談して、そこから引き継いでもらうという方法もいいのかなと思うが、いかがか。認知症疾患医療センターについては、まだ具体的に話をしていないため、そういったところについては少し入っていく必要があるのかなと思っている。その中で補われる部分が多分に出てくるかと思われるため、そこを踏まえてリスト化するのかマップ化するのかの判断はこちらで照会するというよりかは、近道ではないかという話であるので、そういったところで対応させていただければと思う。そちらの方が早いかもしれない。県でも相談したら、そういったことへのサポートなどはできないのか。全てを把握していないかもしれない。どこに行ったらいいとか、そういうことは教えてくれるか。疾患医療センターの方がやはり情報を持っていると思う。 |